

4. 高森町の自然環境を守り伝えていくために



サワガニとり

4. 高森町の自然環境を守り伝えていくために

4.1 高森町の自然環境の特徴

今回の動植物の調査及びとりまとめにより、高森町では約 1,430 種の植物と約 3,450 種の動物が生育、生息していることが明らかとなりました。わずか 3 年間の調査であったことに加え、コケ植物や昆虫類の一部など調査対象とできなかった分類群があることなどから、町内にはさらに多くの生物が生育・生息していると考えられます。

高森町の動植物の特徴としては、長野県の南部に位置し、天竜川の河川敷から本高森山まで標高差が大きいことなどから、温暖な地域の生物と寒冷な地域の生物の両方がみられることが挙げられます。また、地形が複雑であることや、山地森林、扇状地に広がる農地、天竜川の河川敷などの多様な環境があることが生息・生育する生物を多様にしていると考えられます。

希少な生物

環境省レッドリスト（2019）、長野県レッドリスト（2014～2015）にて選定されている希少な生物について整理すると、植物では 30 種程度、動物では 60 種程度となりました。

これらの生物については、生育・生息環境の悪化や気候変動、過度な採集、外来生物との競合などにより、絶滅の危険性が高まっている状況にあります。



ミヤマシジミ



エビネ

分類群	主な希少生物
植物	ムクゲシケシダ、イワヘゴ、イワオモダカ、サネカズラ、ウマノスズクサ、ウリカワ、スプタ、アマナ、ヤマユリ、ササユリ、エビネ、ギンラン、キンラン、コケイラン、ユウスゲ、ヒロハノハネガヤ、カザグルマ、オキナグサ、ツメレンゲ、フモトミズナラ、マツグミ、タガソデソウ、カラタチバナ、センブリ、スズサイコ、カワジシャ、イナサツキヒナノウスツボ、タチキランソウ、ミカエリソウ、ミゾコウジュ、カリガネソウ、キキョウ
哺乳類	カワネズミ、ミズラモグラ、ヤマネ、カヤネズミ
鳥類	ミゾゴイ、チュウサギ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、イヌワシ、サンショウクイ、サンコウチョウ
爬虫類	ヒバカリ、シロマダラ、ニホンイシガメ
両生類	アカハライモリ、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ツチガエル、モリアオガエル
魚類	スナヤツメ、ドジョウ、アカザ、イワナ、アマゴ、ミナミメダカ、カジカ
昆虫類	ミヤマシジミ、クロツバメシジミ、ウラナミアカシジミ、オオムラサキ、コシロシタバ、ヒメシロシタバ、ウスミミモンキリガ、ミスジキリガ、ヨツボシカミキリ、キノコゴミムシ、タムムシ、クロカナブン、クロカタビロオサムシ、カバイロヒラタシデムシ、モートンイトトンボ、ホソミイトトンボ、アオハダトンボ、マルタンヤンマ
クモ類	なし
底生動物	ゲンジボタル、ヘイケボタル、オオナガレトビケラ、コオイムシ
貝類	マルタニシ、オオタニシ、ナミコギセル、オオギセル、オオウエキビ、ヒメハリマキビ、スジキビ、トガリキビ、ハチジョウヒメベッコウ、ドブガイ

外来生物

調査では、国外、国内から人為的に移入したと考えられる外来生物が多数確認されました。特に河原や人家周辺では多くの外来植物が生育している状況で、アレチウリやオオキンケイギク、オオカワジシャなど外来生物法により特定外来生物に指定されている種類も広く生育していました。

動物では、ウシガエルやオオクチバス、コクチバス、ブルーギルなどの生息が確認されました。

外来生物は、元々高森町に生育・生息していた動植物を食べてしまったり、棲む場所を奪ってしまうなどの悪影響を与える可能性があります。

また、外来生物ではありませんが、近年、中央アルプス周辺においてもニホンジカの増加が問題となっており、山地森林の下層植生の劣化や、それに伴う昆虫などの動物への影響なども心配されます。



オオキンケイギク (天竜川河川敷)



コクチバス

分類群	特定外来生物	その他の主な外来生物
植物	アレチウリ、オオカワジシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ	コカナダモ、メリケンカルガヤ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、オニウシノケグサ、イタチハギ、ニセアカシア (ハリエンジュ)、アメリカスミレサイシン、ハルザキヤマガラシ、エゾノギギシ、サボンソウ、ムシトリナデシコ、ヨウシュヤマゴボウ、ヒレハリソウ、アメリカネナシカズラ、オオイヌノフグリ、ブタクサ、オオブタクサ、アメリカセンダングサ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、セイヨウタンポポ、イガオナモミ、オオオナモミ
哺乳類	なし	ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、ハクビシン
鳥類	ソウシチョウ、ガビチョウ	コジュケイ
爬虫類	なし	ミシシippiaアカミミガメ
両生類	ウシガエル	なし
魚類	ブルーギル、コクチバス、オオクチバス	タイリクバラタナゴ、カラドジョウカワムツ (国内外来種)
昆虫類	アカボシゴマダラ	アルファルファタコゾウムシ、アオマツムシ、台湾タケクマバチ
クモ類	なし	なし
底生動物	なし	トガリアメンボ、アメリカザリガニ
貝類	なし	コモチカワツボ、台湾シジミ

4.2 高森町の自然環境を守り伝えていくために

今回の調査により明らかとなった高森町における動植物の現況を踏まえ、今後、高森町の自然を守り伝えていくためには、以下のような取り組みが必要となります。

身近な自然に目を向けつつ、自分のできることからはじめてみましょう。

■自然と親しむ時間を持つ

身近な自然に目を向けてみるのが、自然を知る第一歩となります。

町内を含め、伊那谷には、自然を対象として活動している多くの団体や関連施設などが存在しており、観察会などのイベントが多数開催されています。時間をみつけて、興味を持ったイベントに参加してみましょう。



■動植物について調べる

今回の調査により、高森町の動植物の現況について、大まかに確認することができました。しかしながら、調査は十分とはいえず、継続して情報を蓄積していくことが重要となります。また、気候変動や人為的な影響を含む様々な環境の変化などにより、動植物の生育・生息状況は日々変化していくと考えられます。そのような変化をとらえていくためにも、継続した調査の実施が望まれます。まずは、興味を持った身近な生き物について、知ることから始めてみましょう。



野鳥の観察会

■絶滅のおそれのある動植物の保全活動

希少な生物については、その生育・生息状況を見守りつつ、必要に応じてその減少要因を取り除

いたり、好適な環境を創出したりする保全活動が望まれます。

■外来生物の防除活動

自然環境に悪影響を与える可能性がある外来生物については、その生育、生息状況に目を配りながら、必要に応じて駆除などの活動を行っていきましょう。外来生物は、繁殖能力の高い種類が多いため、見つけたら数の少ないうちに駆除をすることが大切です。まずは、継続して実施されているアレチウリやオオキンケイギクなどの駆除作業などに参加してみましょう。

また、見慣れない生き物を見かけた際には、町まで情報をお寄せください。



アレチウリの駆除活動

■開発行為を行う場合の配慮

開発行為は、実施する場所や内容によって自然に大きな影響を与えることがあります。開発行為を行う場合には、事前にその場所の自然環境や動植物の情報について収集し、できる限り影響を低減するための配慮をすることが望まれます。

■栽培植物、飼育動物の拡散防止

栽培している植物が庭から野外に広がってしまったり、飼育していた動物を野外に逃がしてしまうことは、高森町の元々の生態系を壊してしまいます。また、高森町に生息している種類の生物であっても、ペットショップにて購入してきたものを逃がしてしまうことは、長年かけて形成された遺伝的な特性を壊してしまう場合があります。

飼育・栽培している生き物は、自分でしっかり責任を持ち、最後まで世話をすることが大切です。